

日 時 令和5年11月27日（月）第4校時  
授業場 美術室

生徒 9年C組 24名  
授業者 更科結希

## 1. 題材名 「Color the Future」A表現(1)イ(ア), (2), B鑑賞

### 2. 題材観・子供観・指導観

本題材は、「染め」とは何か?といった問いかけから始まる授業である。現代は、色鮮やかに染められたものがあふれる暮らしを送っている。人々が、「染め」から文化を発展させてきた歴史、様々な分野における活用を踏まえれば、学ぶべき重要な領域である。しかし、私たちの暮らしに欠かせないものであったとしても、「染める」ことに対する理解は低く、実際に「染め」を経験したことがある生徒は、学級のわずか2～3名程度である。そこで、身近なものから染料を取り出したり、染めの技法を自ら調べたりしながら、「染め」を含む工芸が私たちの暮らしにもたらす役割や表現のよさについて考えていける授業の着想に至った。

学習指導要領では、「A表現」の(1)イの構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え表現の構想を練る指導事項、(2)の創意工夫しながら見通しを持って表す技能、「B鑑賞」の美術の働きや美術文化に関する鑑賞に該当する。

昨年度来から、工芸における「役立つ」に関して、実際使うことによって実感を得る「役立ち」と暮らしの中に品があることによって「役立つ」のように、いくつかの「役立ち」があると考え、安易な便利さに偏らないように授業を展開することに留意している。本題材に関しても、単に便利な品にとられることがないように指導していきたい。今回の「染め」は、テキスタイルまでの内容となる。そのため、表現したテキスタイルは、すぐに実用できるものを想起する場合と、ディスプレイや汎用的に利用できる布として考えている場合を想定している。そうした考えも、テキスタイルとしては自然な「役立ち」の理解であると捉えている。

主題を生み出すために設定した学習課題は「未来を染める」とし、個々が自他の「未来」を想起し、工芸の「役立ち」と関連しながら、より深い文脈のなかで主題を見いだせるような授業が展開できるようにしたい。

また、今回は指導計画の全ての過程において、「実験＝試行」を取り入れ、生徒が実際に調査を行うなど、試行から見出したことを踏まえて、主題を生み出し表現していける授業となるように構成した。それは、該当学年において、ほとんどの生徒が「染め」に関わる経験がないこと、合成染料だけではなく天然染料を暮らしの中から抽出したものを使用することなどが理由に挙げられる。特に天然染料における、媒染においてはイオン結合によるもの等、理科の既習事項の知識も活用しながら、実感的な理解を促しながら表現活動を行っていく。

### 3. 題材の目標

- (1) ・「染め」がもたらすよさや特徴及び質感などが感情にもたらす効果、暮らしに役立つ場面や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。  
・意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。
- (2) ・「未来」からイメージを着想し、用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、構成や装飾の目的や条件とも照らし合わせながら、総合的に考え表現の構想を練る。

- ・暮らしの中の「染め」のよさや装飾と調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の意図や創造的な工夫などについて考えるなどして，造形的な見方・感じ方を深める。
- (3) ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し，統一感などを総合的に考え構想を練り，意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組む。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に「染め」のよさや装飾と調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む。

#### 4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 「染め」がもたらすよさや特徴及び質感などが感情にもたらす効果，暮らしに役立つ場面や造形的な特徴などを基に，全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表している。</p>	<p><b>発</b> 「未来」からイメージを着想し，用いる場面や環境，社会とのかかわりなどから主題を生み出し，構成や装飾の目的や条件とも照らし合わせながら，総合的に考え表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 暮らしの中の「染め」のよさや装飾と調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の意図や創造的な工夫などについて考えるなどして，造形的な見方・感じ方を深めている。</p>	<p><b>態表</b> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し，統一感などを総合的に考え構想を練り，意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に「染め」や装飾と調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5. 題材のデザイン (全8時間)

時間	学習活動・学習内容	重点	記録	備考
0	○課題の把握と鑑賞 <b>手立て I-1</b> 課題「染め」とは？(調査) ・染めることに対する自身の考えを共有する ・どうすれば染められるのかについて調査する			
1	○暮らしから色は抽出できるか ・色が抽出できるかもしれないものを持ち寄り，実験する ・染め方や技法について追加調査	知 態表	○	知：意見共有に関わる観察とロイロノートの記述 態
2	○抽出した色は媒染するとどうなるか=天然染料 (2時間目) ○合成染料・技法での試行 (3時間目) ○染料・技法の試行 (4時間目) <b>手立て I-2</b>	思 鑑		思：クロッキー
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;主題を生み出す&gt;</b> ○「未来」について考えを出し合い、自分としての主題を生み出す ・「未来」に関する解釈 ・「未来」から派生するイメージ ・自分としての「未来」</p> <p><b>&lt;構想を練る&gt;</b> ○色合いや技法を選択する</p> <p><b>&lt;表現の試行&gt;</b> ○天然染料と合成染料の違い</p> </div>		○	思：生徒観察，ロイロノート
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;構想を練る&gt;</b> ○主題との関連</p> <p><b>&lt;表現の試行&gt;</b> ○技法によって異なる表現</p> <p><b>&lt;構想を練る&gt;</b> ○布の用途としての構想</p> <p><b>&lt;構想を練る&gt;</b> ○手順の見通し</p> </div>		○	生徒観察，ロイロノート，途中経過の表現
5 本 時	○試行しその結果を確認しながら，表現していく	思 技	○	ロイロノート クロッキー
6	<b>手立て I-2</b>			生徒観察
7			○	ロイロノート クロッキー
8	○相互鑑賞	思 態鑑	○	生徒観察，クロッキー

6. 本時の目標 (5/8)

主題に合わせた構想を基に、色合いや表現に応じた染料の選択及び技法を選択しながら、表現活動を行う。

7. 本時のデザイン

手立て

○子供の学習活動 教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明)	◆留意点 ※評価
<p>1. 主題と構想について共有する。</p> <p>●これまでのお試しからどんな表現にしようと思っ ていますか</p> <p>○現在、考えている方法や構想を共有する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の未来を ・宇宙 ・共存 ←抽出した生徒のテーマ</li> <li>・紐や割り箸を使って絞って染める←抽出した生徒の技法</li> <li>・染料の計画</li> </ul> </div> <p>●想定している方法に不安を感じている人はいますか■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時段階で過程に疑問や不安を感じている課題を取り上げる</li> </ul> <p>▲どんな順序で染めていけばよいだろうか</p> <p>▲どうしたら3色で染められるだろうか</p> <p>▲天然染料と合成染料を両方使うときはどうしたらよいだろうか</p> <p>2. それぞれの過程に留意しながら表現を行う。</p> <p>○考えた手順を踏まえて表現を行う</p> <p>■途中経過を記録しながら、表現に取り組んでいきましょう</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>3. 本時の活動の振り返り</p> <p>■自分の構想を基に取り組んだ今日の活動について振り返りをしましょう</p>	<p>◆ロイロノートとクロッキー帳の活用 (全般)</p> <p>◆主題・構想・表現の想定について共有する</p> <p>◆前時の振り返りで、見通しに不安がある意見を交流し解決策を見いだす</p> <p>※これまでの試行を含め主題や構想を基に表現活動を行っている。</p> <p>◆見つけた課題や順調に進んだ要因などについて振り返ることができるようにする。</p>

## 7. 授業における手立て

### 手立て 前期課程と共通の手立て

- ① 課題解決力を高めるための授業構造等の工夫Ⅰ
- ② 試行への意欲を生み出し「学び合い」を広げ活性化させるための工夫Ⅱ

#### ①課題解決力を高めるための授業構造等の工夫Ⅰ

一単位時間、題材全体の中に試行錯誤や追究の時間を意図的・効果的に配置し、それらの活動を基に課題を明らかにした上で、計画を見直ししながら、主題に深く向き合い、主体的に取り組むことで課題解決の力を高めていく。

#### ②試行への意欲を生み出し「学び合い」を広げ活性化させるための工夫Ⅱ

「造形的な見方・考え方」を働かせながら、影響力を発揮し共に高め合えるような「学び合い」の場を活性化させるため、演示や交流場面において、「やってみたい」「試してみたい」という意欲を生み出し試行場面につながるようにし、子ども達の学び合いが自然と広がるような環境構成の工夫を行う。

後期課程美術科では、2020年度は「生徒が対象や事象との出会いから主題を生み出す場面」において、題材構成の工夫、導入部に着目した手立てを講じてきた。特に学習課題の在り方について検討し、2021年度は、生徒が生み出した主題のもと、主題の追求に必要な視点を獲得するための手立てを講じてきた。いずれも、「主体的・対話的で深い学び」の実現と生徒が学習課題に対し魅力を感じ、学習課題と生み出した主題の追求を重ねていける授業を目指した。2022年度は、「概念的な問い」の設定のもと必要となる視点を他者と共有する場を設定するために意図的に投げかける教師の発問とした。

#### ◆後期課程における前期課程と共通の手立ての具体について

今年度は、手立てⅠに関わり、昨年から引き続き設定している「概念的な問い」の設定をⅠ-1とした。新たに、Ⅰ-2を設け指導計画の構想段階において、実験や試行を取り入れながら構想～表現へとつなげていく方法を取り入れるため、図1のように生徒が表現に向かう中で辿るであろう過程を整理し、それらが関連しやすいような時間になるようにした。そうした時間の保証のためには、他者との関わりが必要であることと同時に次のことについて留意して取り組むことにした。

- ・実験や試行できるための材料を確保する
- ・実験や試行したことが、構想や表現の基になるよう記録できるようにする
- ・主題を生み出す過程において、実験や試行を生かすための説明を行う

手立てⅡに関しては、次の活動に主体的に取り組む際に、必要となる視点を他者と共有する場を設定するために意図的に投げかける教師の発問とした。他者と共有すべき視点は、学習過程の中で必ず検討すべき事項となるよう、教師の働きかけが必要となると考えている。

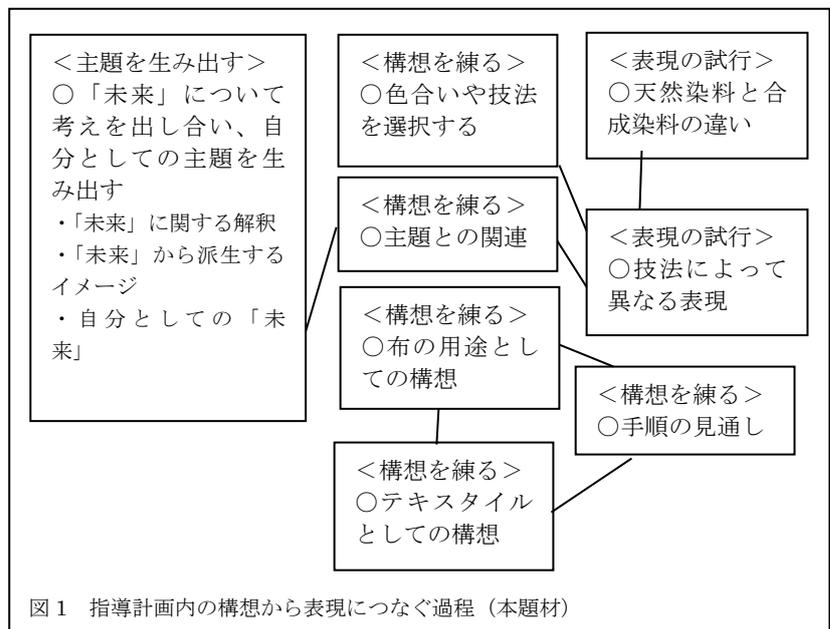


図1 指導計画内の構想から表現につなぐ過程 (本題材)